

豊岡の近代化遺産「復興建築群」

概ね幕末から第2次世界大戦終了後までの間に西欧の技術などを導入して建設された、近代化の歩みを現代に伝える貴重な建造物等を『近代化遺産』といいます。

1925年(大正14年)5月23日に発生した北但大震災により、豊岡の市街地は、その大半が焼失するなど、大きな被害を受けました。町の復興にあたって当時の豊岡町は、先進都市に習って、新たな市街地は最新の文化様式を採り入れて建設するよう望みました。それに加えて兵庫県は、火災の延焼をくい止める防火に重点を

置き、「防火建築補助規定」を定めて、一坪あたり50円という補助金を出すこととしました。この額は、一般的な木造建築物が建てられる金額で、これにより、多くの罹災者が補助金を利用して耐火鉄筋構造の店舗を建築し、旧豊岡町役場や銀行の建物と並んで現在の街並みを形成しました。

豊岡市内には駅通り(大開通り)や生田通り、宵田通りなどに多くの復興建築物があります。それぞれの建物の規模は比較的小さいですが、一定の期間に建てられた

建築物が多く残っている地域は全国的にも限られており、とても珍しい地域の一つだということが出来ます。

豊岡の復興建築の魅力はそれだけではありません。現存する建物をよく見てみると、壁面にさまざまなレリーフがあったり、王冠のような造形があったり、窓枠のデザインが凝っていたりと、とても豊かな表情を持っていることに驚かされます。材料であるモルタルの造形上の可能性を最大限に活かして、当時の左官工達が腕を競い合ったのではないかと想像出来ます。

近代化遺産とは

平成8年度の文化財保護法の改定により、従来の文化財の概念が広げられ、文化財登録保護制度が誕生しました。概ね幕末から第2次世界大戦までの間に西欧の技術などを導入して建設された近代化の歩みを現代に伝える貴重な建築物等、建物や工作物などの『近代化遺産』もその対象になりました。

豊岡市には達徳会館をはじめとし役所、また駅通りや生田通りなどにも多くの近代化の建築があり、震災後85年以上経った現在でも本来の役割を果たしているものもあります。

駅通り(大開通り)



モリヤマ・エトフス

平入2階建ての在来工法による商店建築と、RC造風のファサードを持つ対照的な商店建築。

豊岡稽古堂(旧豊岡市役所)

中央に車寄せと塔屋を立ち上げ、縦方向を強調した建物。左右に大きなアーチの窓を連ねて軒先に持ち送り風の装飾を付け、中心性を強調した。昭和2年建設。昭和27年に3階部分を増築。新庁舎の建設に際して、道路側に約25メートル曳家され、3階部分は改築された。



由利邸

窓周りに柱型を付ける造形手法は近在の商店建築と共通。元は陸屋根だったと考えられるが、寄棟屋根を追加している。RC造。



旧但馬銀行豊岡東支店

RC造の銀行建築。上階の外壁には変更が加えられているが、1階の出入り口の石組みなどが立派。



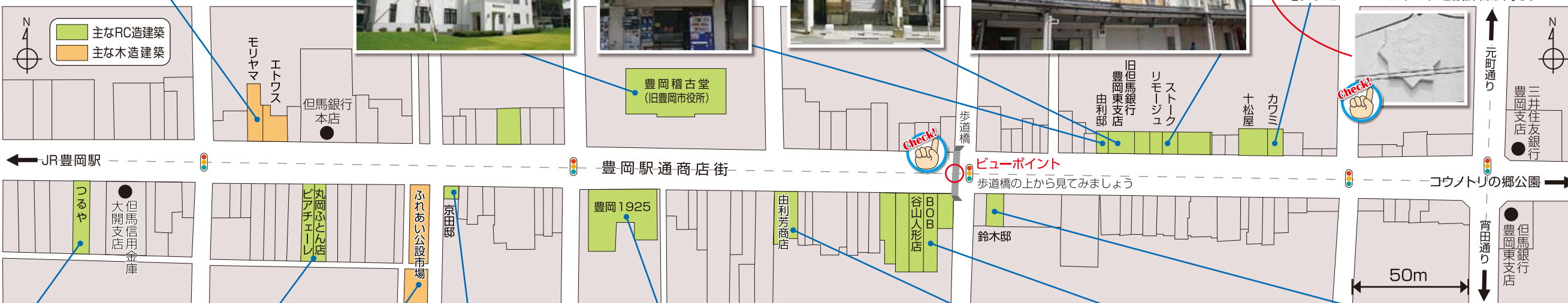
リモージュ・ストーク

3戸1棟のRC造下駄履き住宅。表現主義的なモチーフが見られる中央部と、ロンバルディアアーチやベランダ風手すりなど古典的な意匠も見られる左右翼部のたたずまいがユニーク。



十松屋・カワミ

2戸1棟の形で建設されたものと見られる。軒周りに持ち送り様の装飾が付く。RC造下駄履き住宅。リモージュ・ストークと設計者が同じ。



つるや

鉄筋コンクリート造3階建の商店建築。ファサードにルスチカ風の左官仕上げを施すなど、古典的な味わいのある建物。「SK」のレリーフの意味は？



丸岡ふとん店・ピアチェーレ

2戸1棟形式の協調再建下駄履き住宅。3階部分は後年の増築と見られる。

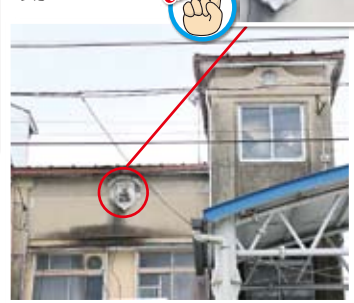


ふれあい公設市場



京田邸

鉄筋コンクリート造2階建の商店建築。コーナーに塔屋を立ち上げる。以前は家具屋だったというが、分銅やえびすさんのレリーフは何を表すのか？



豊岡1925(旧豊岡市役所南庁舎別館)

昭和9年、兵庫県農工銀行として建てられたルネッサンススタイルの銀行建築で、派手さはないものの、角付けの柱を正面に連ねるなど堅実な構成を見せる建築様式。堅牢な面格子や網入りガラスは当時の面影を残す。平成26年、内部の連続する3つのアーチや高い天井を駅舎に見立て、お菓子をテーマにカフェやBAR、宿泊施設を併設する施設に生まれ変わった。



由利芳商店

塔屋を中央に立ち上げ、左右対称を強調しつつ、デコボコで太いストライプを反復させるという表現派的な意匠が見られる。



BOB・谷山人形店周辺

5戸1棟の共同建築とみられるRC造下駄履き住宅。左翼部の簡素なファサードに対して、中央部のパラペットの唐破風風のカーブや照明飾りなどの造形がユニーク。



鈴木邸

2階中央部から立ち上げられた王冠風のバラベット(壁)が斬新。所有者の姓をモチーフにしたのであろう鈴と、唐草文様のレリーフなど、表現主義的な装飾も多彩。

